

「聖徳太子」と「日本遺産」のまち

大阪府 太子町

2021年

～ 聖徳太子没後 1400年～

聖徳太子没後1400年事業

記録集

和



竹内街道



太子聖燈会



叡福寺と二上山



太子町長 田中 祐二

聖徳太子没後 1400 年となる令和 3 年（2021 年）を迎えるにあたり、聖徳太子御廟のある太子町では、知名度向上と来訪者数の増加をめざし、また地域への愛着醸成を目的に聖徳太子没後 1400 年事業に取り組んできました。

本町のまちづくり団体を中心として設立された「聖徳太子没後 1400 年記念実行委員会」においては、近鉄上ノ太子駅前に地域のシンボルとなる聖徳太子像を寄附によって建立したことをはじめ、連続歴史講座の開催や郷土カルタを作成しカルタ大会を実施するなど、その取組みの中心となって活動していただきました。本町としても来訪者の利便性の向上のため、観光案内板の整備を行うなど、様々な取組みを実施してきました。

本町では「和をもって貴しとなす」をモットーにまちづくりを推進しており、“太子町”そして“住民”にとって聖徳太子が特別な存在であることは、没後 1400 年の節目となる令和 3 年以後も変わりません。これからも、個性を尊重しながら協働で物事に取り組む「和の精神」をもってまちづくりを進めていきます。

最後になりますが、当事業を実施できたのは、関係各位からの多大なご支援とご協力によるものです。心からお礼申し上げますとともに、引き続き町政にご協力賜りますようお願い申し上げます。



聖徳太子没後 1400 年記念実行委員会
会長 澤田 清

町の魅力を発信し、地域の活性化につなげるため、町内の各種団体を委員とし創設された「聖徳太子没後 1400 年記念実行委員会」では、没後 1400 年となる令和 3 年（2021 年）に向け、平成 30 年度以降、様々な取組みを行ってきました。町の観光資源を活かしたウォークイベント、聖徳太子を深く知るための連続歴史講座、太子町について楽しみながら学べるたいし郷土カルタの作成、現代に必要な教訓を学ぶシンポジウムなど、町内外問わず多くの人に聖徳太子、そして太子町を知ってもらおうべく、多岐にわたり活動してきました。

中でも、全国の皆様より寄附をいただき、約 1 年間の期間を経て実現した聖徳太子像の建立事業は、聖徳太子の偉大さを再認識するとともに、その存在を改めて広く知らしめたと思います。これからは町を訪れる人を迎えるとともに、次の 100 年を見守るシンボルとなることを願います。

令和 3 年で実行委員会としての事業は終了することになりますが、これまで行ってきた取組みが聖徳太子の「和をもって貴しとなす」の精神を広げ、後世にも引き継いでいく一助になれば幸いです。

「十七条憲法」や「冠位十二階」の制定や遣隋使の派遣など、数多くの功績を残し日本の礎を築いた聖徳太子は、日本書紀によると 621 年に斑鳩宮で逝去し、その後、磯長の御廟まで運ばれ埋葬されました。聖徳太子はその功績から亡き後も厚く讃えられ、聖徳太子御廟を守護する叡福寺は聖徳太子信仰の聖地として発展してきました。聖徳太子没後 1300 年となる大正 10 年（1921 年）には、全国より 20 万人もの人が太子町を訪れたという記録が残っており、近鉄喜志駅前には有志によって「聖徳太子御廟」と彫られた石碑が建てられました。

町名の由来ともなっている聖徳太子御廟のほか、用明天皇や推古天皇などの歴代の天皇陵が点在し、聖徳太子と深く関わりのある本町では、令和 3 年（2021 年）に迎える聖徳太子没後 1400 年を好機と捉え、「太子町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で基本方針に掲げている「まちの魅力を活かした交流・観光の推進」「地域への愛着心の醸成」を達成すべく、没後 1400 年を記念する事業を平成 30 年度より進めてきました。

当事業は、町が観光客受入体制を充実させるためのハード整備（観光案内板の整備など）を行う一方で、町内の各種団体で構成される「聖徳太子没後 1400 年記念実行委員会」が、太子町の知名度を高めるとともに、住民の地域に対する誇りと愛着を醸成するためのソフト事業を実施する、という 2 つの軸を中心に進めてきました。また、近隣自治体との連携として、奈良県の市町村を中心に構成される「聖徳太子プロジェクト推進協議会」にも参画し、府内のみならず府外にも聖徳太子のまち太子町の認知度向上のため、一体となって PR に努めてきました。

具体的な事業としては、キックオフイベントとなる記念講演会に始まり、叡福寺や梅鉢御陵などの史跡名所を巡る歴史ウォーク、聖徳太子について様々な視点から見る連続歴史講座、町の魅力を再発見し、町について楽しく学んでもらうために作成した「たいし郷土カルタ」、全国より寄附を募り完成に至った聖徳太子像、聖徳太子から教訓と展望を学ぶ記念シンポジウムなど、多岐に渡る取組みを行いました。

これらの取組みは、聖徳太子の和の精神をもって成しえてきたことであり、その精神はこれからも「聖徳太子のまち」を標榜する本町にとっては根幹に据えるべきものであります。本町としての聖徳太子没後 1400 年事業は令和 3 年度で終了することとなりますが、今後はこれまでに培われてきた機運を活かし、町の地域資源をより一層活用しながら、さらなる知名度の獲得や太子ブランドの強化を図っていきたくと考えています。

○聖徳太子没後 1400 年記念実行委員会の設立と活動

聖徳太子没後 1400 年記念実行委員会は平成 31 年 2 月 6 日に町の知名度向上と地域の活性化を目的として設立されました。委員には自治会をはじめ、太子町観光・まちづくり協会など、町内の各種団体のメンバーが名を連ね、聖徳太子没後 1400 年となる 100 年に一度の節目に、改めて聖徳太子の功績や受け継がれてきた和の精神を一人でも多くの人に知ってほしいという想いのもと、町と一体となった取組みをスタートさせました。令和 3 年（2021 年）に向けて行う事業を検討するため開催した会議は 9 回にわたり、様々な意見を交わしながら実現に向けて内容をブラッシュアップしていきました。また、実行委員会の取組みを発信するため、会の目的を端的に表現した太子町らしいキャッチフレーズ「和をもって 1400 年を紡ぐ」と特徴的で親しみやすい聖徳太子のロゴマークを考案し、イベントやグッズで活用し、効果的な PR にも努めました。

聖徳太子没後 1400 年記念実行委員会の経過

委員

●平成 30 年度（発足時）

役職	名前	備考
会長	澤田 清	区長会
副会長	松村 勝之	太子町
会計	松井 元治	太子町観光・まちづくり協会
監事	金谷 和美	太子聖燈会の会
監事	松井 史郎	竹内街道にぎわいづくり協議会
	小路 義弘	富田林商工会太子町支部
	田中 幸男	たいし聖徳市実行委員会
	加藤 孝次	観光ボランティア 太子街人(ガイド)の会
	松井 典雄	竹内街道歴史資料館友の会
	水本 孝后	太子町婦人会
	今川 弥生	太子町文化連盟
	羽田 妙子	花のあるまちづくりの会

●令和 3 年度～

役職	名前	備考
会長	澤田 清	
副会長	藤原 幹	太子町
会計	松井 元治	太子町観光・まちづくり協会
監事	金谷 和美	太子聖燈会の会
監事	松井 史郎	竹内街道にぎわいづくり協議会
	石垣 正之	区長会
	小路 義弘	富田林商工会太子町支部
	角田 誠一	たいし聖徳市実行委員会
	加藤 孝次	観光ボランティア 太子街人(ガイド)の会
	原 利則	竹内街道歴史資料館友の会
	水本 孝后	太子町婦人会
	今川 弥生	太子町文化連盟
	羽田 妙子	花のあるまちづくりの会
	阪本 欣久	唐川ホテルを守る会
	筒井 一太	大乘会式協賛会
オブザーバー	近藤 本龍	叡福寺

会議

	日程	議案
第1回	平成31年2月6日(水)	・実行委員会の設立 ・今後の予定について
第2回	令和元年5月31日(金)	・実行委員会の取り組みについて
第3回	令和元年7月30日(火)	・実行委員会の実施コンテンツの素案提示、意見集約
第4回	令和元年10月4日(金)	・実行委員会の実施コンテンツについて1
第5回	令和元年12月4日(水)	・実行委員会の実施コンテンツについて2
第6回	令和2年7月28日(火)	・実行委員会の実施コンテンツについて3
第7回	令和2年11月17日(火)	・実行委員会の実施コンテンツの進捗状況について1
第8回	令和3年2月18日(木) (書面開催)	・実行委員会の実施コンテンツの進捗状況について2
	令和3年3月24日(水) (書面開催報告)	
第9回	令和3年10月6日(水) (書面開催)	・実行委員会の実施コンテンツの進捗状況について3
第10回	令和4年3月22日(火)	・事業報告及び会計報告について

○聖徳太子没後1400年記念講演会

実施日 平成31年3月16日(土)

第1部 全体講演

講師 / 植田 勝博 氏 (弁護士・叡福寺檀家総代)

テーマ / 日本という国と聖徳太子

第2部 パネルディスカッション

司会 / 植田 勝博 氏

パネラー / 太子町長、太子町議会議長、近藤 本龍 氏 (叡福寺管主)、
澤田 清 氏 (聖徳太子没後1400年記念実行委員会会長)

聖徳太子没後1400年事業のキックオフイベントとして開催しました。第1部では講師に叡福寺檀家総代の植田勝博氏をお招きし、「日本という国と聖徳太子」というテーマで、聖徳太子が制定したとされる十七条憲法や冠位十二階をはじめとする業績、今なお伝えられる聖徳太子の思想について講演いただきました。また、第2部ではパネルディスカッションを行い、聖徳太子への想いや、没後1400年を迎えるにあたってのまちづくりへの意気込みなどについて意見を交換しました。



○町内歴史ウォーク

- 実施日**
- 第1回：令和元年 11 月 16 日(土) 叡福寺コース
 - 第2回：令和元年 11 月 23 日(土) 推古天皇陵コース
 - 第3回：令和元年 11 月 30 日(土) 敏達天皇陵コース
 - 第4回：令和元年 12 月 7 日(土) 二上山コース
 - 第5回：令和元年 12 月 14 日(土) 源氏三代墓コース

聖徳太子没後1400年記念実行委員会の委員である、観光ボランティア太子街人の会の案内のもと、町内の歴史遺産を広く知ってもらうため、叡福寺や梅鉢御陵、二上山などの史跡名所を巡る町内歴史ウォークを開催しました。全5回実施され、合計約150人が参加し、2km～5kmの道のりを歩きながら町内を回り、各所では街人の会のガイドの方の解説に聞き入っていました。



○連続歴史講座

- 実施日**
- 第1回：令和2年 10 月 31日(土)
講 師 / 上野 勝己 氏 (太子町立竹内街道歴史資料館 元館長)
テーマ / 聖徳太子墓が辿った1400年の回想
 - 第2回：令和2年 11 月 7日(土)
講 師 / 館野 和己 氏 (大阪府立近つ飛鳥博物館 館長)
テーマ / 画期としての聖徳太子の時代
 - 第3回：令和2年 11 月 15日(日)
講 師 / 千賀 久 氏 (葛城市歴史博物館 特任館長)
テーマ / 聖徳太子墓の造られた時代
 - 第4回：令和2年 11 月 21日(土)
講 師 / 蘇我 孝明氏 (西方院 院主)
テーマ / 聖徳太子三尼公御廟所・西方院1400年の歴史と現在(いま)と未来(これから)
 - 第5回：令和2年 11 月 28日(土)
講 師 / 近藤 本龍 氏 (叡福寺 管主)
テーマ / 聖徳太子に額突(ぬかず)きて



聖徳太子について、その時代背景からはじまり、功績や関連する陵墓など、様々な視点から見る講座を行いました。第4回、第5回では太子町内の聖徳太子ゆかりのお寺である西方院の蘇我院主、叡福寺の近藤管主に没後1400年に寄せる気持ちを語っていただきました。

○聖徳太子没後1400年ウォーク

実施日 第1回：令和3年4月18日(日)
第2回：令和3年10月30日(土)

聖徳太子に関する史跡をはじめ、日本遺産に認定された竹内街道など、町内の歴史遺産を広く知ってもらうため、近鉄が主催となる聖徳太子没後1400年ウォークを共同実施しました。第1回は聖徳太子に焦点を当て、町内の各史跡を巡るコースとし、第2回は竹内街道にも焦点を当て、松原市から街道沿道を通り、太子町までを巡るコースとしました。当日は各所において定点ガイドも行われ、それぞれ約400人の参加者が約14kmの道のりを歴史に思いを馳せながら歩きました。



○たいし郷土カルタ作成・カルタ大会の開催

実施日 カルタ大会：令和3年10月23日(土)

聖徳太子没後1400年を迎えるにあたり、町の魅力を再発見し、地域の子どもたちに遊びを通じて町についてより深く知ってもらうことを目的として「たいし郷土カルタ」を作成しました。「あ」から「わ」までの44組で、読札は公募し、絵札は大阪芸術大学協力のもと描かれたものです。作成後は、カルタの魅力を広く知ってもらい、親しんでもらう機会として「たいし郷土カルタ大会」を開催し、子どもたちを中心に多くの方にカルタを楽しんでもらい、町の魅力を感じてもらうことができました。



○聖徳太子像の建立

この100年に一度の節目の年に、地域のシンボルとして100年後にも残り続けるものとして、また、聖徳太子の功績をたたえ、現代にも受け継がれている和の精神を、後世にも伝えていきたい、という思いから、聖徳太子像を作製することとなりました。100年前の没後1300年の時、聖徳太子御廟の最寄り駅として利用が多かった「太子口喜志駅」（現在の喜志駅）の前に「聖徳太子御廟」と彫りこまれた石碑が建てられたことを受けて、設置場所は羽曳野市の協力のもと、太子町の北の玄関口となっている近鉄上ノ太子駅前となりました。費用やデザインの問題など、多くの課題がありましたが、会議の中で議論を重ね、令和2年の12月から一般寄附を募りスタートしました。

目標金額である1000万円をめざして、実行委員会で地元団体や自治会、聖徳太子ゆかりの団体など、様々な場所に赴いてご寄附のお願いにあがるとともに、全国へ広く周知するため、クラウドファンディングも活用して周知に努めました。初めは取組みがあまり知られていないことから、なかなか集まりませんでした。徐々に知れ渡っていくと府外からも寄附をいただくようになりました。聖徳太子を愛する全国の方々、また、地元の方々のご協力を得て、令和3年4月末に目標額を達成することができました。

その後、約半年間の作製期間を経て、令和3年11月27日（土）にお披露目となる除幕式を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響のため、主催者・関係者のみでの開催となりましたが、幕が降ろされると全長3.2メートルにも及ぶ聖徳太子像が現れ、その存在感を示しました。台座の左面には実行委員会の言葉として作製に至った経緯が、右面には町の代表として寄せられた町立中学校生徒と町長の寄稿文が刻まれています。

像の概要

●聖徳太子像

- ・高さ / 3.2メートル（聖徳太子像1.9メートル＋台座1.3メートル）
- ・材質 / 像：青銅 台座：御影石

●芳名碑

- ・高さ / 2.1メートル
- ・材質 / 御影石



○町のガイドブック「太子町観光学習帳」の作成

太子町を巡るガイドブックとして、学習帳をモチーフにした観光パンフレットを作成しました。



○観光案内板の整備

太子町の観光スポット周辺を中心とし、周遊する際のサインとなる観光案内板の整備（新設・改修）を行いました。



○太子町手ぬぐいスタンプ帳の作成

太子町内の周遊を促進するため、各所に置いているスタンプを押していくと完成する手ぬぐいを作成しました。



○トリックアート制作

太子町内の写真スポットとして、太子・和みの広場に竹内街道や二上山、みかんなどをモチーフにした、太子町の観光スポットを象徴するトリックアートを設置しました。



○観光アプリの導入

町内の周遊促進・観光消費喚起のため、太子町の観光スポットや飲食店の情報にアクセスできるスマホアプリの「ココシルたいし」を導入しました。

○聖徳太子没後 1400 年記念シンポジウム

実施日 令和 3 年 12 月 12 日 (日)

●基調講演

講師 / 金谷 俊一郎 氏 (歴史コメンテーター)

テーマ / 今を切り拓く聖徳太子の叡智～聖徳太子 1400 年間英雄として語り継がれる魅力と理由～

●パネルディスカッション

コーディネーター / 金谷 俊一郎 氏

パネラー / 桂 米團治 氏 (落語家)、武田 佐知子 氏 (大阪大学名誉教授)、
佐藤 朔芳 氏 (元和歌山大学客員特別フェロー)

●日本書紀歌謡・演奏

フルート・龍笛 : 久保 順 氏

歌謡解説 : 佐藤 朔芳 氏

尺 八 : 田中 黎山 氏

聖徳太子没後 1400 年事業の締めくくりのイベントとして、幅広い世代が楽しみ、聖徳太子の功績とその思想から現代への教訓と未来への展望を学ぶことを目的として、記念シンポジウムを開催しました。会場とオンライン合わせて約 270 名の方にご参加いただきました。

第 1 部では歴史コメンテーターとして活躍されている金谷俊一郎氏をお招きし、「今を切り拓く聖徳太子の叡智～聖徳太子 1400 年間英雄として語り継がれる魅力と理由～」と題して、聖徳太子の能力の高さを示す聖徳太子伝説の解説や、十七条憲法の真に意味するところなど、聖徳太子の人物像についてお話いただきました。

第 2 部のパネルディスカッションでは、金谷氏をコーディネーターとし、パネリストとして歴史好きで著名な桂米團治氏、日本史学・服装史・女性史を専門分野とし聖徳太子を題材とした著書もある武田佐知子氏、古事記・日本書紀歌謡の音楽的復興研究の第一人者である佐藤朔芳氏が加わり、様々な観点から聖徳太子を捉え、現代に必要な教訓や今後の展望について活発な発言がなされました。合わせて議論や対話の内容を文字や絵を使って、リアルタイムで分かりやすく表現する「グラフィックレコーディング」も行われました。

参加者募集チラシ・ポスター

ポスター : B 1 サイズ / 100 枚

チラシ : A 4 サイズ / 10000 枚

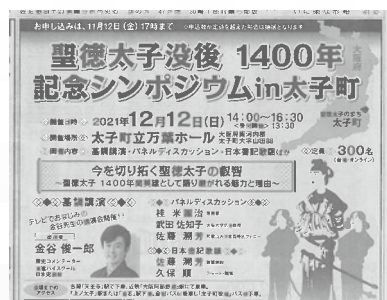


参加者募集新聞広告

掲載紙 : 産経新聞 朝刊 近畿版

掲載日 : 令和 3 年 10 月 1 日 (金)

令和 3 年 10 月 30 日 (土)



参加者配布物

クリアファイル / 太子町観光学習帳 /
太子町観光マップ / 竹内街道・横大路大道お楽しみガイド /
シンポジウムプログラム / 参加記念品 (サコッシュ) / マスク

※オンライン参加者には視聴用 URL の通知書とともに事前に郵送



実施写真・グラフィックレコーディング



YouTube 配信

視聴者数 (再生数) /237 回
(令和 3 年 12 月 13 日現在)





発行：太子町
令和4年3月